

しろちどり



第 66 号

2011 年 1 月 日本野鳥の会三重

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

イヌワシ (津市 平井正志)

イヌワシを初めて見たのは北アルプス笠ヶ岳であった。当時はたしか大学院生であり、体力も十分に盛んに山に登っていた。その時は立山へ2人で入り、その友人は薬師岳で降り、その後、一人でツェルトを持ってキャンプを重ねて最後に笠ヶ岳のテント場で一泊した。笠の頂上で頂上直下にあるハイマツの小さな頂、緑の笠をスケッチしていた時、ピーッと盛んに鳴いている大きな鳥を見た。その頃は鳥についての知識がそんなにあったわけではないが、すぐにイヌワシの幼鳥と分かった。近くで繁殖したのであろう、巣立ち直後の幼鳥が親鳥を呼んでいたのである。穂高をのぞむ広大なハイマツの山肌は彼らの世界であったのだ。翌日はイヌワシの記憶を胸に長い道のりを新穂高へ降りた。

その後、鈴鹿の山中でもそれらしい鳥を見た。御在所岳から奥へ入った杉峠のあたり、で2羽の巨大な鳥を見た。おそらくイヌワシであったのだろう。杉峠のあたりにはイブネ・クラシと呼ばれる広いススキの頂というか平原があり、また当時は植林のためにそここの山肌が広く伐採され、イヌワシの狩場が豊富に残されていたのであろう。

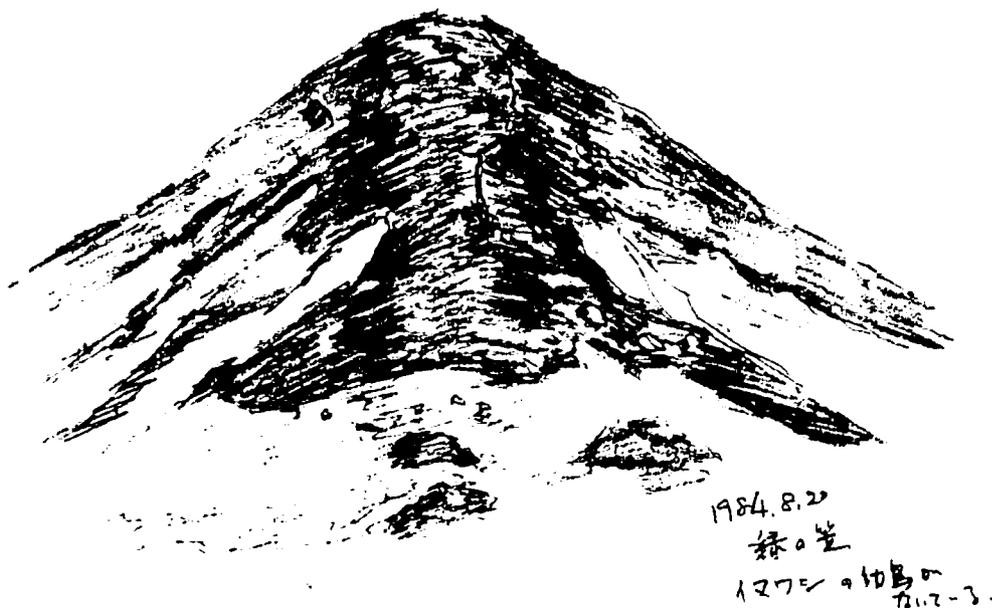
最近では兵庫県の水ノ山に植物を捜しに登った帰りであった。あいにく、日当ての植物は見つからなかった。山麓まで降り、車で帰る途中

で、山肌をゆうゆうと飛ぶイヌワシを見た。

今年10月にいなべ市であった山崎亨氏の講演会を聴いた。氏によると鈴鹿山脈のイヌワシはもう3つがいしかいないという。それも2つがいは近年繁殖に成功しておらず、もうひとつがいはいなべ市のつがいがだけが繁殖を成功させているという。鈴鹿の南部にはもうイヌワシはいないという。杉峠で見た巨大な鳥はイヌワシであったのかどうか今となっては定かではないが、もう見る事ができないのである。更に奈良県と三重県の境に抜がる大台ヶ原山地にいたイヌワシももういなくなったという。

イヌワシはもう日本からいなくなるのであろうか。イヌワシがいなくなってもすぐに何か困るわけでもない。しかし、人はコンクリートとアスファルトに囲まれて永遠に住めるわけではない。自然環境が食料の生産など人の存在基盤であることはいままでもないが、都会に住む人達でも休日になれば野外へ郊外へとレクリエーション、旅行に出かける人がなんと多いことか。自然の中で心を癒されるのは人間の本性なのであろう。イヌワシを野外で見た人はほぼ例外なく、その雄大さに心を奪われる。自然のおおいを改めて感じるのである。翻ってその中の自分を見つめることになるのは私だけではあるまい。

また、あのイヌワシの雄大な飛翔を心ゆくまで楽しみたいものである。



鳥に関する本の紹介

近藤義孝（編集部）

昨年4月、転勤で電車通勤になり、行き帰りの電車の中でたくさんの本を読むことができました。その中で、お薦めの本を少し紹介します。



表紙の言葉

北川和則（多気町）

梟の声を聞けば、幼いころを思い出す。鳴けば良く母親にしがみついていたようです。あのころ聞いた梟の声をもう一度聞きたいものです。

目次

イヌワシ	1
表紙の言葉	2
目次	2
鳥に関する本の紹介	2
野鳥記録	3
事務局だより	4
理事会報告	4
探鳥会報告	5
しろちどり原稿募集	9
しろちどり 65号訂正とお詫び	9
編集後記	9

飛べない鳥の謎

鳥の生態と進化を巡る15章

樋口広芳著

平凡社 1996

「旭川では昔から、ホトトギスがないのに、ウグイスの巣に赤い卵を産む鳥がいます。これは何でしょう」という質問からはじまる托卵の不思議など5つの章からなっている。

文明化した人間の八つの大罪（第2版）

K・ローレンツ著 日高敏隆・大羽更明訳

新思索社 1995

ローレンツは「刷込み」など、動物行動学（エソロジー）を確立したことによって、ノーベル医学生理学賞を受賞している。40年前に書かれた内容とは思えないほど、現代文明の問題点を動物行動学の立場から述べている。

天上の鳥 アマツバメ

－オックスフォード大学博物館の塔に

D・ラック著 丸 武志訳

平河出版社 1997

「ロビンの生活」の著者でもあるD・ラックは徹底した野外観察で行い、鳥類学の研究方法を確立したヒトでもある。

渡りの足跡

梨木香歩著

新潮社 2010

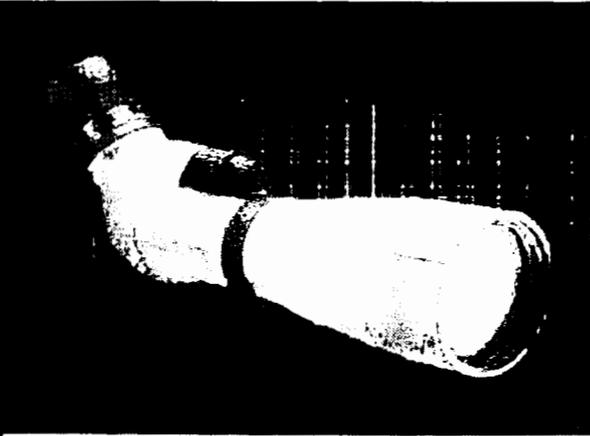
映画にもなった「西の魔女が死んだ」などの著者。渡り鳥を追い、知床や諏訪湖など各地を訪れて書かれたエッセイ。

野鳥記録(2010年9月~12月に報告のあったもの)

※表中の「報告者」は「初認者」ではない場合もあります。

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	記録報告者	写真	備考
ツメナガセキレイ	13	2010/9/11	御浜町市木	中井 節二	○	
アメリカウズラシギ	1	2010/9/23	津市香良洲町	西村 四郎	○	
マミジロタヒバリ	1	2010/9/30	御浜町志原	中井 節二	×	1
ヘラシギ	1	2010/9/4	津市町屋海岸	安達 直孝	○	2
オニアジサシ	1	2010/9/18	三重県松阪市五主 五主海岸	今井 光昌	○	3
ホシガラス	1	2010/9/26	三重県鳥羽市神島町	嶋田 さつき	○	
イソシギ	1	2010/9/16	御浜町志原	中井 節二	○	4
マミジロタヒバリ	2	2010/10/6	御浜町志原	中井 節二	○	
ヘラサギ	1	2010/11/23	松坂市五主町	大塚 之稔	○	5
キレンジャク	1	2010/11/4	四日市市北勢中央公園	横山 真一	○	6
ヒレンジャク	1	2010/11/7	四日市市北勢中央公園	横山 真一	○	
ミヤマガラス	2	2010/12/18	南牟婁郡御浜町市木~熊野市有馬	中井 節二	○	
ミコアイサ	21	2010/11/28	津市芸濃町横山池	平井 正志	×	7

- 備考1 飛びながらビュービューと何回も鳴いていた。
- 備考2 ミユビ(シギ)、トウネンの混群(100羽くらい)に交じていた。
- 備考3 松阪市五主海岸から津市白塚海岸を行動していたものと思われる。
2010.09.18 五主海岸 2010.09.19 五主海岸 2010.09.20 白塚海岸 安濃海岸
2010.09.23 雲出川河口 2010.09.24 雲出川河口
- 備考4 担当注: イソシギ大の鳥で奇妙な顔をしており識別困難だった個体。記録者の中井氏が野鳥の会本部に同定を依頼したところイソシギとの回答を得たとのこと。
- 備考5 担当注: 日本野鳥の会岐阜の大塚氏が記録、当会からの依頼でご報告いただいた。
- 備考6 秋の11月にレンジャクを観察するのは大変珍しい。11月6日には不在だったが7日にヒレンジャクを連れて戻ってきた。8日の朝は確認されたが以後行方不明。
- 備考7 雄3雌タイプ18。他にマガモ多し。



取扱商品

フィールドスコープ
双眼鏡(小型・大型)
天体望遠鏡
カメラ(新品・中古)
その他光学製品各種

取扱メーカー

KOWA・NIKON・FUJINON
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

中部地区最大の光学製品専門店

TELESCOPE CENTER EYEBELL

テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル)
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00
ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc

事務局だより

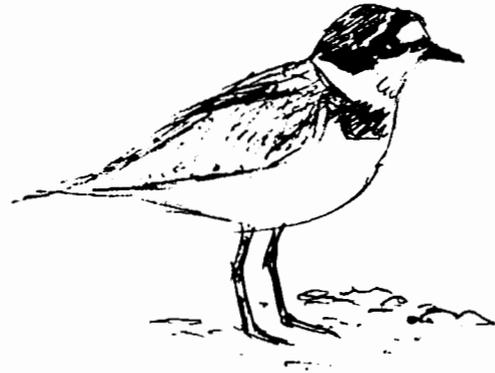
支部活動の記録（2010年9月～12月）

- 9/8 「県営防災ダム事業環境調査委託」の完成検査
- 9/15 猛禽類専門家に面会
- 9/17 「青山高原ウインドファーム風力発電増設」の件で県庁にて記者発表
- 9/18 「青山高原ウインドファーム風力発電増設」について意見聴取会に参加
- 9/26 会報「しろちどり第65号」発行
- 10/4 環境省中部地方環境事務所を訪問
- 10/26 「第5回三重県環境影響評価委員会」傍聴
- 11/14 第2回理事会
- 11/26 太平洋セメント(株)を訪問（代表他2名）
- 12/7 「県営防災ダム事業環境調査その2委託」入札
- 12/12 南勢地区会
- 12/16 NPO法人 バードリサーチ代表が来訪
- 12/23 「県営防災ダム事業環境調査その2委託」打ち合わせ
- 12/27 「県営防災ダム事業環境調査その2委託」関係先へ挨拶回り
- 12/30 県委託「ガンカモ類及びカワウ一斉調査」の準備作業

●今後の予定

2011年

- 1/9 県委託「ガンカモ類及びカワウ一斉調査」
- 1/23 会報「しろちどり第66号」発行
- 3/7 第3回理事会
- 3/19～20 しぜん文化祭



理事会報告

第2回（2010年11月14日）

津市雲出市民センター 出席者9名

【協議事項】

○鈴鹿山脈イヌワシ問題

山頂鉦区と治田鉦区の2カ所でセメントを採掘する計画でアセスメントを実施中
アセスメント以前に撤退してほしいと要請、会社はアセスメントの結果に従って活動
太平洋セメントともう一度話し合い「このままの方針で行くのか」確認する
社長宛に要望書を送る その後、記者会見をする
同時に、環境省、文部科学省、環境影響評価委員、三重県、いなべ市なども要望書を送る

○伊賀市の市道ゆめほりす摺見線でサシバ、オオタカ、ハチクマを確認しているの、伊賀市に調査をしてほしいという会員の要望について、日本野鳥の会三重としてどのように対応するか、会員に確認の上、対応する

○雲出川コアジサシ繁殖

デコイと中州整備 まずは、手で除草作業をする そして、コアジサシの繁殖場所である事を示す看板を立てる 来年の春に除草作業をする

○密対連から「メジロの愛玩飼養は、すみやかに終息を！」の要望を環境大臣にだすことについて

- 木曾岬干拓地をチュウヒの保護区として残すための要望書を出す
最終文案ができ次第、メールで確認する
- 来期の体制
理事改選の年 理事10名 監事2名 委員8名
大筋はこのままでいく
- ガンカモ調査については、問題がないか 現時点では特に問題はない
- 海岸の清掃作業を来年度に入れる
- タカの渡り調査

探鳥会報告 (10年9月～11月)

● 高松海岸探鳥会

2010年9月12日(日) 10:00～12:00

三重郡川越町 高松海岸

市川雄二 高 和義 参加者7名(会員4名)
カイツブリ(1)、カワウ(12)、ダイサギ(1)、コサギ(3)、アオサギ(1)、ミサゴ(1)、キアシシギ(4)、イソシギ(2)、ソリハシシギ(3)、ウミネコ(514)、キジバト(1)、ドバト(2)、ムクドリ(4)、ハシボソガラス(23) 計14種

9月中旬としては大変暑い日の探鳥会となりました。潮干狩りや残暑を海で楽しむレジャー客も多数みられ、野鳥にとってもゆっくりできない環境であるようです。

7名の参加者がありましたが、ミサゴや渡りの途中のキアシシギやソリハシシギが見られ参加者の皆さんに楽しんでいただきました。

● 海蔵川探鳥会

2010年9月14日(火) 9:40～12:00

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

尾畑玲子 高 和義 参加者14名(会員10名)
カイツブリ(6)、カワウ(3)、ゴイサギ(11)、チュウサギ(22)、コサギ(1)、アオサギ(!)、カルガモ(61)、キジ(1)、バン(3)、キジバト(5)、カワセミ(1)、ツバメ(2)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(1)、モズ(1)、スズメ(8)、ムクドリ(36)、ハシボソガラス(2)、ハシブトガラス(1)、ドバト(4) 計21種

前日までの猛暑から解き放たれ、強い日差しもなく過ごしよかった。

この日の一番の見ものは、チュウサギとカルガモの飛翔。どちらも群れで上空を舞ってくれ

た。ベテランの参加者にサギのなかまの違いを説明していただき、参加者は大満足であった。代官橋の中洲にあったヤナギは野鳥の憩う指定席だったが、8月の大雨で倒され取り除かれてしまった。中洲も小さくなり、単調な風景となってしまった。

● 多度山タカ渡り探鳥会

2010年9月19日(日) 9:00～12:00

桑名市多度町 多度山

安藤宣朗 参加者14名(会員9名)

チュウサギ、コサギ、ミサゴ、ハチクマ、ノスリ、サシバ、キジバト、コゲラ、ショウドウツバメ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、イカル、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計18種

まだ例年より暑いものの秋らしい爽やかな朝、絶好のタカ渡り日和になった。

早めに駐車場に着いた参加者が多度山の稜線に視線を向けていた。近くの森で昨日休息したと思われるサシバかハチクマ?が2羽3羽と飛んで行く。県外からの参加者2名を含む14名の参加者で観察地点まで15分程登山道を登る。途中でカラスのモビングでうるさそうなノスリが渡って行く。期待を胸に観察地点で待つこと1時間やっとサシバ1羽が申し訳なさそうに頭上を通過。更に待つこと1時間あまり、11時45分木曾三川方面から湧き出るとく10羽のサシバとハチクマのタカ柱!!合計24羽のタカの渡りを堪能した探鳥会であった。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2010年9月26日(日) 9:00~12:00

弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝 米倉 静 参加者15名(会員5名)
カイツブリ(10)、カワウ(30)、ゴイサギ(2)、ダイサギ(7)、チュウサギ(6)、コサギ(4)、アオサギ(6)、マガモ(1)、カルガモ(35)、コガモ(16)、ホシハジロ(1)、ミサゴ(7)、オオタカ(1)、サシバ(2)、キジ(1)、コチドリ(1)、ケリ(10)、アオアシサギ(3)、クサシギ(7)、イソシギ(3)、キジバト(5)、カワセミ(1)、ヒバリ(7)、ショウドウツバメ(500)、ツバメ(5)、ハクセキレイ(4)、ヒヨドリ(11)、モズ(5)、セッカ(1)、メジロ(2)、カラヒワ(45)、スズメ(100)、ムクドリ(60)、ハシボソガラス(60)、ハシブトガラス(80)、ドバト(10) 計36種

暑い夏も去り、渡りのサシバが最初に現れました。鳥合わせを終わり、解散するときに野鳥園の上空をオオタカが飛びました。

● 高見タカ渡り探鳥会

2010年9月26日(日) 9:00~13:00

松阪市 高見トンネル付近
西村四郎 中西 章 参加者22名(会員17名)
ミサゴ、ハチクマ、トビ、サシバ、キジバト、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、クマタカ、イソヒヨドリ 計14種

集合場所の「飯高道の駅」から局が岳方面を見ると、50羽ほどのサシバのタカ柱が観察できました。

さい先良し、と期待しながら高見トンネルまで移動し観察を始めましたが、20羽ほどのタカ柱が一度観察できただけで、あとはぼつぼつでした。サシバにハチクマにミサゴ、トビ、おまけにクマタカと種類はでてくれました。近くの杉にサシバが一度だけ止まってくれましたが、あとは遠かった。

● 法花探鳥会

2010年9月26日(日) 8:00~12:00

伊賀市 法花
田中豊成 小林達也 参加者10名(会員5名)
ダイサギ、アオサギ、ハチクマ、トビ、オオタ

カ、ハイタカ、サシバ、キジバト、ヒバリ、コシアカツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ、ドバト 計20種

観察種は20種だったが、お目当てのタカ科が5種も見られた。

なかでも、サシバ69羽、ハチクマ15羽、オオタカ4羽、ハイタカ1羽の渡りが観察できタカ柱も4回見られて、参加者全員満足した会だった。

● 産田川探鳥会

2010年9月26日(日) 9:00~12:00

熊野市有馬町 産田川周辺
中井節二 参加者2名(会員2名)
カワウ、ゴイサギ、チュウサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、ヒクイナ、キジバト、カワセミ、コシアカツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、コサメビタキ、ホオジロ、カラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計25種

参加人数が少なかったが、思ったより鳥の数が多かった。

● 伊勢タカ渡り探鳥会

2010年10月2日(土) 7:30~10:30

伊勢市旭町 伊勢やすらぎ公園
吉居 清 高木和夫 参加者23名(会員17名)
ミサゴ、サシバ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、エゾビタキ、ヤマガラ、イカル、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計11種

目的のサシバは8時過ぎからパラパラと飛来。10時30分までにサシバ21羽のみで、タカ柱は見られず残念。

年々サシバの飛来数が減少し、今年も累計1,000羽を超えるか否か心配。



● 鳥羽タカ渡り探鳥会

2010年10月3日(日) 7:00~10:00

鳥羽市船津町 鳥羽消防署横空地

川村晴彦 中村徳次郎 参加者6名(会員5名)

カワウ、アオサギ、カルガモ、トビ、ハイタカ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ハシボソガラス 計11種

前日の天気予報が悪く期待していませんでしたが、渡りのタカは1羽も見られず、残念な結果に終わりました。

● 安濃川河口探鳥会

2010年10月17日(日) 10:00~12:00

津市高州町 安濃川河口堤防

岡 八智子 落合 修 参加者21名(会員16名)

カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、スズガモ、ミサゴ、トビ、オオバン、シロチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、シジュウカラ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト、ミヤコドリ、ミュビシギ、オオミズナギドリ 計42種

津海岸側の大がかりな堤防工事が影響してか、先に雲出川河口に58羽入ったと聞くミヤコドリが未だ安濃川河口に来ない。何も居ないと思いきや、多くの方の目で結構遠くのシギ達を探せた。

カモもボツボツ入り、少し上流にダイサギが集結、最後にミヤコドリ3羽が飛来してくれ、京都からの参加の方達にも見てもらえた。大きなボラを捕まえて目の上を飛ぶミサゴに一同歓声を上げた。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2010年10月24日(日) 9:00~12:00

弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者10名(会員5名)

カイツブリ(21)、カワウ(7000)、ゴイサギ(3)、

ダイサギ(2)、コサギ(8)、アオサギ(10)、マガモ(10)、カルガモ(50)、コガモ(200)、ハシビロガモ(2)、ホシハジロ(1)、ミサゴ(7)、チョウゲンボウ(1)、キジ(1)、オオバン(1)、ケリ(3)、クサシギ(2)、イソシギ(3)、ユリカモメ(2)、カモメ(1)、キジバト(25)、ヒバリ(7)、ツバメ(1)、ハクセキレイ(20)、ヒヨドリ(10)、モズ(10)、エゾビタキ(1)、シジュウカラ(2)、ホオジロ(12)、スズメ(100)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(17)、ドバト(3) 計34種

開始前、「かわいい、かわいい」と子どもの声。そちらを見るとエゾビタキ。鳥あわせの時にも、同じ場所にまだいてくれてみんなを楽しませてくれました。

チョウゲンボウも観察でき、そろそろ猛禽のシーズンがやってくるようです。

● 中村川探鳥会

2010年11月7日(日) 9:30~11:30

松阪市嬉野一志町 中村川中流域

小野新子 竹川華子 参加者17名(会員13名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ミサゴ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、キジ、イカルチドリ、クサシギ、イソシギ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト 計34種

以前は細石のきれいな中村川だったが、近年の豪雨で土石が堆積し美しい流れとは言えなくなってしまった。

曇り空の下、出会いを求めて目的地に出発。河川に出ると早速ノスリの水浴びを発見、その後、カワセミの美しい姿やチョウゲンボウの出現にすっかり時間を費やし、結局、目当てのオジロトウネンを時間内に見つけることができなかった。

終了後、少し上流でオジロトウネンを確認すると連絡が入った。



● 香良洲海岸探鳥会

2010年11月13日(土) 10:00~12:00

津市香良洲町 香良洲海岸

今井光昌 岡八智子 参加者25名(会員20名)

アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、スズガモ、ミサゴ、トビ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、ハマシギ、ミユビシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、キジバト、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、ピンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計36種

遠方からの参加、初めての方の参加もいただき、ミヤコドリや大型シギが見られず心配しましたが、最終36種の観察ができました。

● 木曽岬干拓地探鳥会

2010年11月28日(日) 9:00~12:00

弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 森井豊久 参加者25名(会員11名)

カイツブリ(30)、カワウ(100)、ダイサギ(5)、アオサギ(10)、マガモ(15)、カルガモ(100)、コガモ(100)、オカヨシガモ(6)、ハシビロガモ(20)、ホシハジロ(20)、キンクロハジロ(7)、スズガモ(10)、ミサゴ(10)、オオタカ(1)、ハイタカ(1)、ノスリ(1)、チュウヒ(2)、チョウゲンボウ(!)、キジ(2)、ケリ(9)、クサシギ(2)、イソシギ(2)、ユリカモメ(5)、カモメ(1)、キジバト(10)、カワセミ(1)、ヒバリ(20)、ハクセキレイ(11)、タヒバリ(20)、ヒヨドリ(5)、モズ(3)、ジョウビタキ

(2)、ツグミ(50)、ホオジロ(3)、アオジ(2)、カワラヒワ(5)、スズメ(20)、ムクドリ(20)、ハシボソガラス(70)、ハシブトガラス(30)、ドバト(1) 計41種

オオタカ雄の若鳥から始まり、チョウゲンボウ、チュウヒ、ノスリ、ミサゴ、ハイタカと次々に猛禽類が出ました。カモ類やジョウビタキ、アオジと冬鳥も増えています。

● 海蔵川探鳥会

2010年11月30日(火) 9:40~12:00

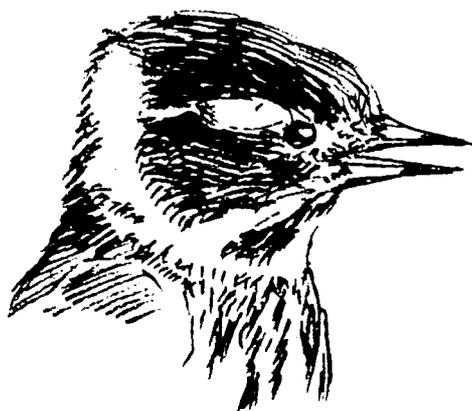
四日市市西坂部町 海蔵川沿い

尾畑玲子 高和義 参加者11名(会員8名)

カイツブリ(4)、カワウ(2)、ゴイサギ(3)、アオサギ(1)、マガモ(4)、カルガモ(4)、オオタカ(2)、キジ(1)、バン(8)、キジバト(2)、カワセミ(2)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(7)、モズ(2)、ツグミ(3)、ウグイス(4)、メジロ(1)、ホオジロ(4)、アオジ(4)、カワラヒワ(5)、マヒワ(2)、スズメ(2)、ムクドリ(5)、ハシボソガラス(3)、ハシブトガラス(2)、ドバト(7) 計28種

予想していたより暖かく、風もゆるやかで、肩に力のはいらない探鳥会日和であった。

冬鳥のマガモ、ツグミ、マヒワのほかオオタカが2羽北の上空を舞っているところや、カワセミ2羽が連れ立って川面を飛んだところなどは、参加者も大いに沸き立っていた。代官橋の付近では中洲のヤナギの木が大雨で撤去され、中洲そのものもやせ細って野鳥の休憩所がうしなわれたため、種類が少なかったが全体的に見ると28種は十分な数である。



しろちどり原稿募集

編集部では原稿を募集しています。鳥に関わるどのようなことでも結構です。

挿絵なども募集します。

締め切りは2011年3月15日です。

原稿は、編集担当 近藤義孝まで E-mail: fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

住所 〒511-0123 桑名市多度町北猪飼521

しろちどり65号の訂正とお詫び

編集部 近藤義孝

9月26日発行の「しろちどり65号」の8ページ「コアジサシの受難」で、間違いがあり、10月10日付けで訂正の内容を送らせていただきました。再度、確認のために訂正のお知らせをします。

この文章は、今井光昌氏がブログに書かれた内容について承諾を得て転載し、その最後に平井正志代表のコメントをもらったものでした。

編集の段階で、執筆者が平井代表の名前になってしまいました。編集担当のミスで、今井光昌氏をはじめ、多くの人にご迷惑や不快な思いをさせてしまったこととお詫びします。

写真も今井光昌氏のもので、ヒナの写真は印刷段階で上下逆になっていました。写真についても記載がなかったことも合わせてお詫びします。

編集後記

野生生物と人間との軋轢が各地で問題になっています。私の周辺でも何度か紹介させていただいたようにニホンザル・シカ・イノシシの被害は相当なものになっています。花札では「イノシカチョウ」ですが、「イノシカサル」です。また、今年の干支 ウサギも山でよく見かけるようになりました。そして、ツキノワグマも各地で騒がれています。野生生物は増えているのか、以前と比べて何が変わったのか、まだ、結論はでていないようです。野生生物が危険な人間の前に姿を現すようになったのはなぜなのでしょう。

Y.K.

しろちどり 66号

2011年1月23日発行

題 字: 濱田 稔

表紙絵: 北川和則

カット: 平井正志

編 集: 近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

発行所: 日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印刷: 東海出版(有)

510-0885 四日市市日永4丁目5-48